様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 北海道芸術デザイン専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人美専学園 |

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 課程名 | 学科名 | 夜間･通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数 | 省令で定める基準単位数又は授業時数 | 配置困難 |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門課程 | 産業デザイン学科（グラフィックデザイン専攻） | 夜･通信 | 180 | 160 | |
| | 産業デザイン学科（イラストレーション専攻） | 夜･通信 | 180 | 160 | |
| | マルチメディアデザイン学科（Web・動画クリエイター専攻） | 夜･通信 | 180 | 160 | |
| | マルチメディアデザイン学科（ゲームCGクリエイター専攻） | 夜･通信 | 180 | 160 | |
| | 建築デザイン学科（建築士専攻） | 夜･通信 | 180 | 160 | |
| | 環境デザイン学科（インテリアデザイン・コーディネーション専攻） | 夜･通信 | 180 | 160 | |
| | 環境デザイン学科（クラフトデザイン専攻） | 夜･通信 | 180 | 160 | |
| | 環境デザイン学科（フラワーデザイン専攻） | 夜･通信 | 180 | 160 | |
| （備考） | | | | | |

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://bisen-g.ac.jp/publicdata/

３．要件を満たすことが困難である学科

| 学科名 |
|---|
| （困難である理由） |

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 北海道芸術デザイン専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人美専学園 |

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://bisen-g.ac.jp/publicdata/

２．学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容や期待する役割 |
|---|---|---|---|
| 非常勤 | 私立学校法人前校長 | 2025年5月評議員会～2029年5月評議員会終結の時 | 各部会との調整 |
| 非常勤 | 民間企業職員 | 2025年5月評議員会～2029年5月評議員会終結の時 | 関連業界との調整 |
| 非常勤 | 弁護士事務所所長 | 2025年5月評議員会～2029年5月評議員会終結の時 | 専門的な助言 |
| 非常勤 | 司法書士事務所所長 | 2025年5月評議員会～2029年5月評議員会終結の時 | 専門的な助言 |
| 非常勤 | 私立学校法人理事 | 2025年5月評議員会～2029年5月評議員会終結の時 | 関連業界との調整 |
| （備考） | | | |

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|---|---|
| 学校名 | 北海道芸術デザイン専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人 美専学園 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。

■授業計画の作成
・各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。
・シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。
・シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。
１月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。３月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。８月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。

■授業計画の公表
・各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開
・各専攻シラバスを公式 HP で公開

| | |
|---|---|
| 授業計画書の公表方法 | https://bisen-g.ac.jp/publicdata/<br>※上記ページから専攻別のリンクあり |

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

学則第12条・13条に基づき以下の方法で認定。
■各教科の履修認定
・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。
・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。
・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。

■進級の認定
・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。

| ３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 | |
|---|---|
| （客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）<br>■客観的な指標の設定・公表<br>・履修科目の５段階の成績評価をつぎの配点でGP（ポイント）化する。<br>秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0　不可→0<br>GPA は次の計算式に従い算出する。<br>GPA＝(GP×科目の単位数)/履修科目の単位数の合計<br>※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目は GP＝0 とする。<br><br>■成績評価の適切な実施に係る取組<br>・成績管理システムに上記 GPA 算出式による GPA 帳票出力を開発中<br>・GPA 帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備 | |
| 客観的な指標の算出方法の公表方法 | https://bisen-g.ac.jp/publicdata/ |
| ４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 | |
| （卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）<br><br>■卒業認定の方針<br>・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。<br><br>■卒業の認定に係る取組<br>・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。<br>・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。<br>・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。 | |
| 卒業の認定に関する方針の公表方法 | https://bisen-g.ac.jp/publicdata/ |

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 北海道芸術デザイン専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人 美専学園 |

１．財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|---|---|
| 貸借対照表 | https://bisen-g.ac.jp/publicdata/ |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://bisen-g.ac.jp/publicdata/ |
| 財産目録 | https://bisen-g.ac.jp/publicdata/ |
| 事業報告書 | https://bisen-g.ac.jp/publicdata/ |
| 監事による監査報告（書） | https://bisen-g.ac.jp/publicdata/ |

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 文化・教養 | 専門課程 | 産業デザイン学科<br>（グラフィックデザイン専攻） | ○ | |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | ２４００単位時間 | 300単位時間 | 2100単位時間 | 0単位時間 | 0単位時間 | 0単位時間 |
| | | | 2400単位時間 | | | | |

| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 320人の内数 | 84人 | 0人 | 7人の内3人 | 18人 | 21人 |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| （概要）<br>■授業計画の作成<br>・各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。<br>・シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。<br>・シラバスは、以下のPDCAサイクルに基づき策定。<br>１月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。３月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。８月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。<br>■授業計画の公表<br>・各専攻の教科目概要PDFを公式HPで公開<br>・各専攻シラバスを公式HPで公開 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要）<br>■客観的な指標の設定・公表<br>・履修科目の５段階の成績評価をつぎの配点でGP（ポイント）化する。<br>秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0 不可→0 |

GPA は次の計算式に従い算出する。
GPA＝(GP×科目の単位数)/履修科目の単位数の合計
※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目は GP＝0 とする。
■成績評価の適切な実施に係る取組
・成績管理システムに上記 GPA 算出式による GPA 帳票出力を開発中
・GPA 帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備

卒業・進級の認定基準

（概要）
学則第 12 条・13 条に基づき以下の方法で認定。
■各教科の履修認定
・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。
・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。
・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。
■進級の認定
・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
■卒業認定の方針
・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。
■卒業の認定に係る取組
・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。

学修支援等

（概要）
クラス担任制
個別面談・指導等の対応
面談及び保護者との連携

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|
| 39 人<br>(100%) | 0 人<br>(0%) | 31 人<br>(79.5%) | 8 人<br>(20.5%) |

（主な就職、業界等）
広告、Web、印刷、インハウス　等

（就職指導内容）
就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会　等

（主な学修成果（資格・検定等））
Illustrator クリエイター能力認定試験、色彩士検定、ビジネス能力検定　等

（備考）（任意記載事項）

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 83 人 | 3 人 | 3.6% |
| （中途退学の主な理由）<br>進路変更 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等 | | |

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 文化・教養 | 専門課程 | 産業デザイン学科<br>（イラストレーション専攻） | ○ | |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2 年 | 昼 | ２４００<br>単位時間 | 300<br>単位時間 | 2100<br>単位時間 | 0<br>単位時間 | 0<br>単位時間 | 0<br>単位時間 |
| | | | 2400 単位時間 | | | | |

| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 320 人の内数 | 170 人 | 0 人 | 7 人の内<br>4 人 | 35 人 | 39 人 |

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

■授業計画の作成

・各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。

・シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。

・シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。

１月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。３月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。８月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。

■授業計画の公表

・各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開

・各専攻シラバスを公式 HP で公開

成績評価の基準・方法

（概要）

■客観的な指標の設定・公表

・履修科目の５段階の成績評価をつぎの配点で GP（ポイント）化する。

秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0　不可→0

GPA は次の計算式に従い算出する。

GPA＝(GP×科目の単位数)/履修科目の単位数の合計

※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目は GP＝0 とする。

■成績評価の適切な実施に係る取組

・成績管理システムに上記GPA算出式によるGPA帳票出力を開発中
・GPA帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備

卒業・進級の認定基準

（概要）
学則第12条・13条に基づき以下の方法で認定。
■各教科の履修認定
・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。
・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。
・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。
■進級の認定
・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
■卒業認定の方針
・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。
■卒業の認定に係る取組
・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。

学修支援等

（概要）
クラス担任制
個別面談・指導等の対応
面談及び保護者との連携

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|
| 91人（100%） | 0人（0%） | 62人（68.1%） | 29人（31.9%） |

（主な就職、業界等）
広告、印刷、web制作、ゲーム、看板製作、TVテロップ制作、アニメーション等

（就職指導内容）
就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会　等

（主な学修成果（資格・検定等））
Illustratorクリエイター能力認定試験、色彩士検定、ビジネス能力検定ジョブパス等

（備考）（任意記載事項）

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 183 人 | 3 人 | 1.6% |
| （中途退学の主な理由）<br>健康及び経済的理由による進路変更 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等 | | |

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 文化・教養 | 専門課程 | マルチメディアデザイン学科<br>(Web・動画クリエイター専攻) | ○ | |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2 年 | 昼 | ２４００<br>単位時間 | 30<br>単位時間 | 2370<br>単位時間 | 0<br>単位時間 | 0<br>単位時間 | 0<br>単位時間 |
| | | | 2400 単位時間 | | | | |

| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 80 人の内数 | 28 人 | 0 人 | 4 人の内<br>2 人 | 14 人 | 16 人 |

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

■授業計画の作成

・各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。

・シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。

・シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。

１月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。３月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。８月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。

■授業計画の公表

・各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開

・各専攻シラバスを公式 HP で公開

成績評価の基準・方法

（概要）

■客観的な指標の設定・公表

・履修科目の５段階の成績評価をつぎの配点で GP（ポイント）化する。

秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0　不可→0

GPA は次の計算式に従い算出する。

GPA＝(GP×科目の単位数)/履修科目の単位数の合計

※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目は GP＝0 とする。

■成績評価の適切な実施に係る取組

・成績管理システムに上記GPA算出式によるGPA帳票出力を開発中
・GPA帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備

卒業・進級の認定基準

（概要）
学則第12条・13条に基づき以下の方法で認定。
■各教科の履修認定
・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。
・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。
・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。
■進級の認定
・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
■卒業認定の方針
・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。
■卒業の認定に係る取組
・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。

学修支援等

（概要）
クラス担任制
個別面談・指導等の対応
面談及び保護者との連携

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|
| 15人（100%） | 0人（0%） | 11人（73.3%） | 4人（26.7%） |

（主な就職、業界等）
Web、広告、映像　等

（就職指導内容）
就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会　等

（主な学修成果（資格・検定等））
Illustratorクリエイター能力認定試験、Photoshopクリエイター能力認定試験、ビジネス能力検定、Webクリエイター能力認定検定、Webデザイナー検定　等

（備考）（任意記載事項）

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 34 人 | 2 人 | 5.9% |
| （中途退学の主な理由）<br>進路変更による | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等 | | |

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 文化・教養 | 専門課程 | マルチメディアデザイン学科<br>（ゲーム CG クリエイター専攻） | ○ | |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2 年 | 昼 | ２４００<br>単位時間 | 30<br>単位時間 | 2370<br>単位時間 | 0<br>単位時間 | 0<br>単位時間 | 0<br>単位時間 |
| | | | 2400 単位時間 | | | | |

| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 80 人の内数 | 18 人 | 0 人 | 4 人の内<br>2 人 | 8 人 | 10 人 |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| （概要）<br>■授業計画の作成<br>・各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。<br>・シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。<br>・シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。<br>１月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。３月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。８月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。<br>■授業計画の公表<br>・各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開<br>・各専攻シラバスを公式 HP で公開 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要）<br>■客観的な指標の設定・公表<br>・履修科目の５段階の成績評価をつぎの配点で GP（ポイント）化する。<br>秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0　不可→0<br>GPA は次の計算式に従い算出する。<br>GPA＝(GP×科目の単位数)/履修科目の単位数の合計<br>※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目は GP＝0 とする。<br>■成績評価の適切な実施に係る取組 |

・成績管理システムに上記GPA算出式によるGPA帳票出力を開発中
・GPA帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備

卒業・進級の認定基準

（概要）
学則第12条・13条に基づき以下の方法で認定。
■各教科の履修認定
・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。
・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。
・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。
■進級の認定
・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
■卒業認定の方針
・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。
■卒業の認定に係る取組
・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。

学修支援等

（概要）
クラス担任制
個別面談・指導等の対応
面談及び保護者との連携

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|
| 6人（100%） | 0人（0%） | 3人（50.0%） | 3人（50.0%） |

（主な就職、業界等）
ゲーム　等

（就職指導内容）
就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会　等

（主な学修成果（資格・検定等））
Photoshopクリエイター能力認定試験、ビジネス能力検定、CGクリエイター検定等

（備考）（任意記載事項）

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 15 人 | 1 人 | 6.7% |
| （中途退学の主な理由）<br>健康的理由による進路変更 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等 | | |

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | | 専門士 | | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 工業 | | 専門課程 | 建築デザイン学科 | | ○ | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | ２４００単位時間 | 960 単位時間 | 1440 単位時間 | 0 単位時間 | 0 単位時間 | 0 単位時間 |
| | | | 2400 単位時間 | | | | |

| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 60 人 | 43 人 | 0 人 | 3 人 | 10 人 | 13 人 |

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

■授業計画の作成

・各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。

・シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。

・シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。

１月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。３月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。８月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。

■授業計画の公表

・各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開

・各専攻シラバスを公式 HP で公開

成績評価の基準・方法

（概要）

■客観的な指標の設定・公表

・履修科目の５段階の成績評価をつぎの配点で GP（ポイント）化する。

秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0　不可→0

GPA は次の計算式に従い算出する。

GPA＝(GP×科目の単位数)/履修科目の単位数の合計

※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目は GP＝0 とする。

■成績評価の適切な実施に係る取組

・成績管理システムに上記 GPA 算出式による GPA 帳票出力を開発中

・GPA 帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備

卒業・進級の認定基準

（概要）
学則第 12 条・13 条に基づき以下の方法で認定。
■各教科の履修認定
・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。
・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。
・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。
■進級の認定
・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
■卒業認定の方針
・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。
■卒業の認定に係る取組
・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。

学修支援等

（概要）
クラス担任制
個別面談・指導等の対応
面談及び保護者との連携

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|
| 13 人<br>（100%） | 4 人<br>（30.8%） | 8 人<br>（61.5%） | 1 人<br>（7.7%） |

（主な就職、業界等）
建築設計事務所、建設業、工務店、住宅メーカー　等

（就職指導内容）
就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会　等

（主な学修成果（資格・検定等））
２級建築施工管理技術検定、建築ＣＡＤ検定、福祉住環境コーディネーター、Illustrator クリエイター能力認定試験、色彩士検定、商業施設士補、宅建士、Photoshop クリエイター能力認定試験、アソシエイトインテリアプランナー　等

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
|---|---|---|

| | | |
|---|---|---|
| 33 人 | 1 人 | 3.0% |
| （中途退学の主な理由）<br>体調不良及び経済的理由による進路変更 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等 | | |

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 文化・教養 | 専門課程 | 環境デザイン学科<br>（インテリアデザイン・コーディネーション専攻） | ○ | |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2 年 | 昼 | ２４００<br>単位時間 | 480<br>単位時間 | 1920<br>単位時間 | 0<br>単位時間 | 0<br>単位時間 | 0<br>単位時間 |
| | | | 2400 単位時間 | | | | |

| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 100 人の内数 | 39 人 | 0 人 | 3 人の内<br>1 人 | 8 人 | 9 人 |

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

■授業計画の作成

・各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。

・シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。

・シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。

１月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。３月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。８月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。

■授業計画の公表

・各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開

・各専攻シラバスを公式 HP で公開

成績評価の基準・方法

（概要）

■客観的な指標の設定・公表

・履修科目の５段階の成績評価をつぎの配点で GP（ポイント）化する。

秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0　不可→0

GPA は次の計算式に従い算出する。

GPA＝(GP×科目の単位数)/履修科目の単位数の合計

※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目は GP＝0 とする。

■成績評価の適切な実施に係る取組

・成績管理システムに上記 GPA 算出式による GPA 帳票出力を開発中

・GPA 帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備

卒業・進級の認定基準

（概要）
学則第 12 条・13 条に基づき以下の方法で認定。
■各教科の履修認定
・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。
・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。
・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。
■進級の認定
・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
■卒業認定の方針
・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。
■卒業の認定に係る取組
・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。

学修支援等

（概要）
クラス担任制
個別面談・指導等の対応
面談及び保護者との連携

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|
| 15 人<br>（100%） | 0 人<br>（0%） | 14 人<br>（93.3%） | 1 人<br>（6.7%） |

（主な就職、業界等）
インテリアデザイナー、住宅設計、施工管理、家具営業販売、インテリアコーディネーター、住設機器メーカー営業等

（就職指導内容）
就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会　等

（主な学修成果（資格・検定等））
Illustrator クリエイター能力認定試験、色彩士検定、建築ＣＡＤ検定　等

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
|---|---|---|
| 34 人 | 2 人 | 5.9% |

| |
|---|
| （中途退学の主な理由）<br>体調不良及び経済的理由による進路変更 |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等 |

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 文化・教養 | 専門課程 | 環境デザイン学科<br>(クラフトデザイン専攻) | ○ | |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | ２４００<br>単位時間 | 30<br>単位時間 | 2370<br>単位時間 | 0<br>単位時間 | 0<br>単位時間 | 0<br>単位時間 |
| | | | 2400 単位時間 | | | | |

| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 100 人の内数 | 31 人 | 0 人 | 3 人の内<br>1 人 | 13 人 | 14 人 |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| （概要）<br>■授業計画の作成<br>・各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。<br>・シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。<br>・シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。<br>１月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。３月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。８月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。<br>■授業計画の公表<br>・各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開<br>・各専攻シラバスを公式 HP で公開 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要）<br>■客観的な指標の設定・公表<br>・履修科目の５段階の成績評価をつぎの配点で GP（ポイント）化する。<br>秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0　不可→0<br>GPA は次の計算式に従い算出する。<br>GPA＝(GP×科目の単位数)/履修科目の単位数の合計<br>※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目は GP＝0 とする。<br>■成績評価の適切な実施に係る取組<br>・成績管理システムに上記 GPA 算出式による GPA 帳票出力を開発中<br>・GPA 帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備 |
| 卒業・進級の認定基準 |

（概要）
学則第 12 条・13 条に基づき以下の方法で認定。
■各教科の履修認定
・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。
・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。
・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。
■進級の認定
・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
■卒業認定の方針
・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。
■卒業の認定に係る取組
・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。

学修支援等

（概要）
クラス担任制
個別面談・指導等の対応
面談及び保護者との連携

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|
| 15 人<br>（100%） | 0 人<br>（0%） | 13 人<br>（　86.7%） | 2 人<br>（　13.3%） |

（主な就職、業界等）
家具製造・企画営業、店舗内装品・特注家具製造、製材業、宝飾販売、陶芸教室アシスタント ほか製造業

（就職指導内容）
就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会　等

（主な学修成果（資格・検定等））
Illustrator クリエイター能力認定試験、色彩士検定、建築ＣＡＤ検定　貴金属装身具制作技能士　等

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
|---|---|---|

| | | |
|---|---|---|
| 33 人 | 2 人 | 6.1% |
| （中途退学の主な理由）<br>経済的理由による進路変更 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等 | | |

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 文化・教養 | 専門課程 | 環境デザイン学科<br>（フラワーデザイン専攻） | ○ | |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2 年 | 昼 | ２４００<br>単位時間 | 270<br>単位時間 | 2130<br>単位時間 | 0<br>単位時間 | 0<br>単位時間 | 0<br>単位時間 |
| | | | 2400 単位時間 | | | | |

| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 100 人の内数 | 18 人 | 0 人 | 3 人の内<br>1 人 | 13 人 | 14 人 |

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

■授業計画の作成

・各教科指導担当教員がシラバスを作成し教務部へ提出。

・シラバス記載内容：指導担当者と実務経験/授業概要/到達目標/授業計画/評価方法/履修上の留意点等。

・シラバスは、以下の PDCA サイクルに基づき策定。

１月：教育課程編成委員会で各専攻教育課程試案を提示、外部委員と意見交換。３月：新年度教育課程に基づいて各教科の指導内容等を協議・確認する講師会議を実施。８月：教育課程編成委員会で運用中の教育課程について状況を報告し、助言を踏まえ必要に応じ改善を実施。

■授業計画の公表

・各専攻の教科目概要 PDF を公式 HP で公開

・各専攻シラバスを公式 HP で公開

成績評価の基準・方法

（概要）

■客観的な指標の設定・公表

・履修科目の５段階の成績評価をつぎの配点で GP（ポイント）化する。

秀→4.0 優→3.0 良→2.0 可→1.0　不可→0

GPA は次の計算式に従い算出する。

GPA＝(GP×科目の単位数)/履修科目の単位数の合計

※不可・不合格と判定されたり履修を中止した授業科目は GP＝0 とする。

■成績評価の適切な実施に係る取組

・成績管理システムに上記 GPA 算出式による GPA 帳票出力を開発中

・GPA 帳票により成績分布状況を的確に把握し、期末時に指導可能な体制を整備

卒業・進級の認定基準

（概要）
学則第 12 条・13 条に基づき以下の方法で認定。
■各教科の履修認定
・到達目標に対する達成度/出席状況/課題提出状況を総合的に勘案。
・評価方法等は入学後のクラスオリエンテーションで各担任が学生へ周知。
・各教科の評定等は成績表に記載し、学期末に保護者へ送付。
■進級の認定
・進級制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、進級要件を満たしているか認定会議で判定。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
■卒業認定の方針
・卒業制作作品に専攻の特性が活かされているか、在学期間中の集大成としてふさわしい成果物かどうか、各専攻の最終審査に基づき合否を判定。出席率・卒業制作以外の課題提出状況等、他の要件も勘案し卒業を認定。
■卒業の認定に係る取組
・卒業制作要項に基づき、所定期間内で制作した提出物を審査会で評価。
・評価方法等は事前に要項で学生に明示、集計表および合否は校内に掲示。
・審査会の集計結果を踏まえ、卒業要件を満たしているか認定会議で判定。

学修支援等

（概要）
クラス担任制
個別面談・指導等の対応
面談及び保護者との連携

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|
| 7 人<br>（100%） | 0 人<br>（0%） | 6 人<br>（85.7%） | 1 人<br>（14.3%） |

（主な就職、業界等）
生花販売、ブライダル、メディア関係、葬儀　業

（就職指導内容）
就職ガイダンス、キャリアカウンセリング、業界特別講座、校内企業説明会　等

（主な学修成果（資格・検定等））
フラワー装飾技能士検定、NFD フラワーデザイナー資格検定、フラワーラッピングコーディネーター検定、色彩士検定、ビジネス能力検定　等

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
|---|---|---|
| 20 人 | 1 人 | 5.0% |

| |
|---|
| （中途退学の主な理由）<br>健康及び経済的理由による進路変更 |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等 |

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

| 学科名 | 入学金 | 授業料<br>（年間） | その他 | 備考（任意記載事項） |
|---|---|---|---|---|
| 環境デザイン学科<br>クラフトデザイン<br>専攻 | 150,000 円 | 780,000 円 | 210,000 円 | 施設費（180,000 円）<br>材料費（30,000 円） |
| 環境デザイン学科<br>フラワーデザイン<br>専攻 | 150,000 円 | 780,000 円 | 280,000 円 | 施設費（180,000 円）<br>花材費（100,000 円） |
| 上記以外の<br>全学科・専攻 | 150,000 円 | 780,000 円 | 180,000 円 | 施設費（180,000 円） |
| | 円 | 円 | 円 | |

| 修学支援（任意記載事項） |
|---|
| 社会に貢献できる自立した人材の育成を資することを目的とした制度<br>・髙橋英雄記念特別奨学制度<br>美専学園特待制度<br>・AO 特待<br>在籍高校または出身校での出席や成績などが良好で意欲的な方を応援する制度<br>・作品選抜特待<br>・学校推薦特待<br>・適性証明特待<br>・大学・短大・社会人特待<br>親または兄弟姉妹が本校または北海道医薬専門学校の在校生または卒業生<br>・ファミリー特待<br>美専学園奨学生制度<br>入学後、頑張る学生を応援する制度<br>・パブリック奨学生<br>・スカラシップ奨学生<br>・交換留学奨学制度 |

ｂ）学校評価

| 自己評価結果の公表方法 |
|---|
| （ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）<br>https://bisen-g.ac.jp/pdf/public_data_jikotenken_2025.pdf |
| 学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） |

| | | |
|---|---|---|
| 自己評価ガイドラインに則り、教職員により自校の教育理念・目的・育成人材、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生募集、財務、法令遵守等について自己評価を行い、その結果及び改善策等について、外部委員から意見や助言をいただき、教育活動の改善・充実を図る。学校関係者評価委員会は、卒業生を含む外部委員（4名）と学校運営に携わる教職員で構成し、年１回開催する。議事録をホームページで公表する。 | | |
| 学校関係者評価の委員 | | |
| 所属 | 任期 | 種別 |
| （有）アークス　代表取締役 | 令和７年４月１日～令和８年３月31日 | 学識経験者<br>企業関係者 |
| 風の村　陶芸工房　アトリエ陶<br>代表取締役 | 同上 | 卒業生<br>企業関係者 |
| 元学校法人評議員・教員 | 同上 | 地域関係者<br>学識経験者 |
| 宮の沢明日佳病院　看護部長 | 同上 | 企業関係者<br>学識経験者 |
| 学校関係者評価結果の公表方法 | | |
| （ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）<br>https://bisen-g.ac.jp/pdf/evaluation_R07.pdf | | |
| 第三者による学校評価（任意記載事項） | | |
| | | |

ｃ）当該学校に係る情報

| |
|---|
| （ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）<br>https://bisen-g.ac.jp/ |

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|---|---|
| 学校コード（13桁） | H101310200020 |
| 学校名（○○大学 等） | 北海道芸術デザイン専門学校 |
| 設置者名（学校法人○○学園 等） | 学校法人美専学園 |

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|---|---|---|---|---|
| 支援対象者数<br>※括弧内は多子世帯の学生等（内数）<br>※家計急変による者を除く。 | | 88人 | 80人 | 90人 |
| 内訳 | 第Ⅰ区分 | 42人 | 37人 | |
| | （うち多子世帯） | （　　人） | （　　人） | |
| | 第Ⅱ区分 | 22人 | 21人 | |
| | （うち多子世帯） | （　　人） | （　　人） | |
| | 第Ⅲ区分 | 16人 | 15人 | |
| | （うち多子世帯） | （　　人） | （　　人） | |
| | 第Ⅳ区分（理工農） | － | － | |
| | 第Ⅳ区分（多子世帯） | － | － | |
| | 区分外（多子世帯） | 人 | 人 | |
| 家計急変による<br>支援対象者（年間） | | | | 0人 |
| 合計（年間） | | | | 90人 |
| （備考） | | | | |

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---|---|
| 年間 | 0人 |

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。） | |
|---|---|---|---|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | 人 | 0人 | 人 |
| 修得単位数が「廃止」の基準に該当<br>（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当） | 人 | 0人 | 人 |
| 出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況 | 人 | － | － |
| 「警告」の区分に連続して該当<br>※「停止」となった場合を除く。 | 人 | － | － |
| 計 | 人 | － | － |
| （備考） | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。） | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 年間 | 人 | 前半期 | 0人 | 後半期 | 0人 |

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---|---|
| 退学 | 0人 |
| ３月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| （備考） | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---|---|
| ３月未満の停学 | 0人 |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| （備考） | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。） | |
|---|---|---|---|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| ＧＰＡ等が下位４分の１ | 人 | 0人 | － |

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。） | |
|---|---|---|---|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が「警告」の基準に該当<br>（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当） | 人 | 0人 | 0人 |
| ＧＰＡ等が下位４分の１ | 人 | 0人 | － |
| 出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況 | 人 | － | － |
| 計 | 人 | － | － |
| （備考） | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。